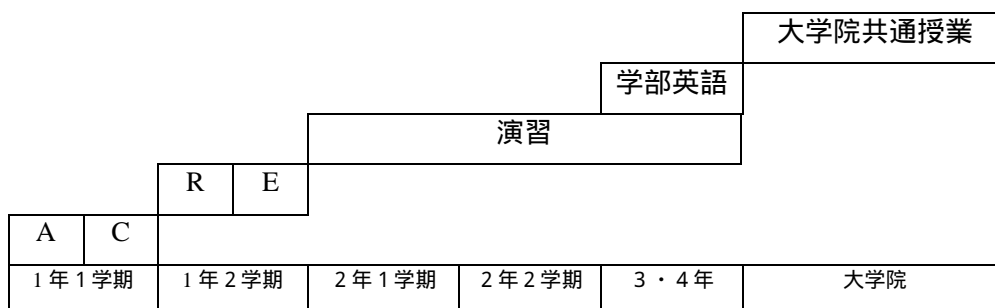


外国語科目（英語）新カリキュラム案（別紙資料）

「ステップアップ」の概略図



科目内容と付随事項

(1) コア部門

・英語 A (Articulation)

発信型基礎練習。習熟度別クラスにはしない。

・英語 C (CALL「時間開放型 CALL 授業」)

受信型基礎練習。指定教材 NetAcademy(Listening Course/Reading Course 1-40)の自学自習。学期末(7月中旬)の TOEFL-ITP によって成績評価を行う。合格ラインの設定を慎重に行う。なお合格点に達しなかった学生はその後に複数回行われる同試験を受け、合格すれば随時単位を追加認定する。学生に対するサポート体制は以下のとおり。

- (ア) 組織的サポートと個別的サポートの二本立てで学生の学習支援を行なう
- (イ) 英語教員からなる委員会を設置し、オンラインでのサポート体制を整える
- (ウ) レベル別の自学自習ガイド(学習内容と学習スケジュール)を作成する
- (エ) オンライン版実力診断テストを提供する
- (オ) オンラインの質問コーナーの設置やそれをまとめた FAQ を作成する
- (カ) 英語 A (対面授業)の教員が、担当学生の CALL 自学自習をサポートする
- (キ) 担当教員はオフィスアワーや電子メールを利用して、学生の個別指導を行う

・英語 R (Reading)

受信型応用練習。一般的な題材の多読・精読。1年1学期末の TOEFL-ITP の成績によって中級・初級にクラス分けする。(上級者については下記の「TOEFL-ITP」を参照のこと。)初級の受講資格は TOEFL-ITP420 点未満の者とする。

・英語 E (Elective)

主として技能別の応用練習コース。選択肢はスピーキング、ライティング、リスニングのほかに「総合基礎英語」と時間開放型 CALL 授業を設ける。「総合基礎英語」は「R」の初級同様 TOEFL-ITP420 点未満の者を対象にする。時間開放型 CALL 授業は指定教材 (NetAcademy の Listening Course/Reading Course 41-80) の自学自習である。学期末(1月中旬)の TOEFL-ITP によって成績評価を行う。

・TOEFL-ITP

1年次1学期の学期末(7月中旬)に実施する TOEFL-ITP で 530 点以上取った者は1年次2学期の2単位と2年次以降の英語2単位(合計4単位)を「既修得」として認定する。当該学生にはその関心領域に見合った「英語演習」の履修を奨励するとともに、「学部英語」を履修できるようにするなど何らかの配慮を各学部に要請する。

また、1年次2学期の学期末(1月中旬)に実施する TOEFL-ITP で 530 点以上取った者は2年次以降の英語2単位を「既修得」として認定する。当該学生にはその

関心領域に見合った「英語演習」の履修を奨励するとともに、「学部英語」を履修できるようにするなど各学部配慮を要請する。

(2) 発展部門

・英語演習

コア部門で養われた英語力をもとに、英語を学術研究のツールとして使えるようになることを目標にする。「言語と科学」、「環境と人間」、「人間と文化」など大きくくりのテーマ別にクラスを設ける。言語文化部英語教員が担当するほかに、できるかぎり学部教員に担当協力を要請する。教材は学生の将来の学術研究を意識しながら選ばれるが、かならずしも専門的に高度なものでなくてもかまわない。レベル別にクラス分けする。また特に留学生や上級者に配慮して、「リスニング初級」や「スピーキング上級」など、ひとつの技能に特化したレベル別授業も開講する。

・大学院共通授業科目

平成17年度から各学期にプレゼンテーション・スキルズのトレーニングを主眼とする「高度実践英語」を言語文化部教員が開講する。